完全義務化まで1カ月 火災警報器

設置の完全義務化がおよそ１カ月後に迫る住宅用火災警報器―。すでに全国の過半数以上の世帯に設置され、実際に被害軽減効果を上げているとともに、機器そのものに対する認知度もここ数年で飛躍的に高まった。東日本大震災を機に、「安全・安心」に対する意識がかつてない高まりをみせるなか、火災発生を感知し、逃げ遅れを防止する火災警報器の役割が改めて注目されている。

すべての住まいに逃げ遅れ防止機能を

死亡リスク減少に効果

焼損床面積なども半減

煙や熱で火災発生を感知し、警報音や音声で火災の発生を知らせる警報器。国は2004年に消防法を改正し、すべての住宅への警報器設置を義務づけた。06年の新築住宅に続き、市町村条例で定めることとされた既存住宅についても、今年6月には全国で完全義務化される。

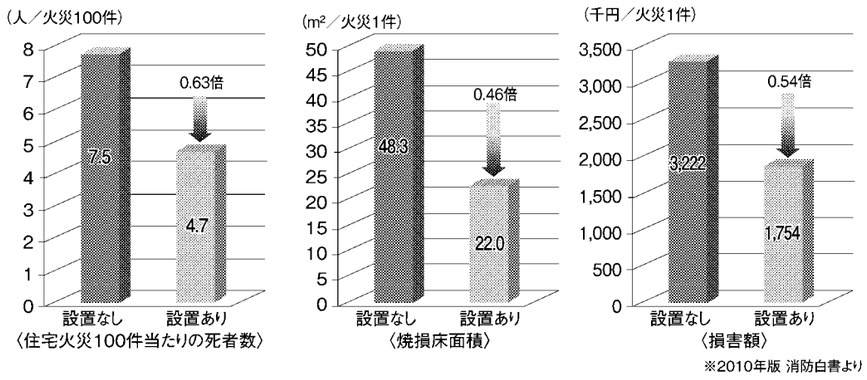
法改正の背景にあるのは、火災による死者数の増加だ。なかでも住宅火災によって死に至る原因の約70％が「逃げ遅れ」にあり、その多くを高齢者が占める。米国では設置義務づけによる火災警報器の普及に伴い、住宅火災による死者数は70年代から半減するといった政策効果を上げていることも法制化の弾みとなった。

総務省消防庁によると全国の住宅用火災警報器の普及率は10年12月時点で63・6％。半年前と比べると5・2ポイントの上昇で、各地域における設置促進の取り組みがあらわれている。

普及に伴う被害軽減効果も明らかになってきた。例えば消防庁が07年から09年までの3年間の失火を原因とした約4万件の住宅火災について、火災警報器の設置による被害減少効果を分析したところ、死者数、焼損床面積、損害額のいずれにおいても警報器が設置されている場合は、設置されていない場合に比べ被害が半減することが分かった（**グラフ**）。10年版消防白書では火災警報器について「火災発生時の死亡リスクや損失の拡大リスクが減少する」と言及している。

一方で、都道府県別の普及率には依然として大きな開きがみられる（**表**）。宮城県や石川県が80％を越えるのに対し、いまだ普及率40％台にとどまっている自治体もある。10年4月に島部を除き、設置を完全義務化した東京都は09年に65・8％だった普及率が10年には79％まで上昇。こうした現状を踏まえ、総務省消防庁では「各地域でのさらなる普及促進へ一層の取り組みが必要」と話している。

住宅用火災警報器の設置による被害減少効果



住宅用火災警報器の都道府県別推計普及率

都道府県名	推計普及率
北海道	66.4%
青森県	71.2%
岩手県	52.1%
宮城県	82.0%
秋田県	49.7%
山形県	49.4%
福島県	54.1%
茨城県	49.7%
栃木県	62.8%
群馬県	58.7%
埼玉県	62.9%
千葉県	64.3%
東京都	79.2%
神奈川県	61.4%
新潟県	49.8%
富山県	73.8%
石川県	80.0%
福井県	56.8%
山梨県	42.5%
長野県	65.9%
岐阜県	47.7%
静岡県	65.6%
愛知県	70.9%
三重県	64.5%
滋賀県	58.0%
京都府	75.6%
大阪府	62.3%
兵庫県	63.1%
奈良県	55.9%
和歌山県	59.8%
鳥取県	40.6%
島根県	46.7%
岡山県	50.6%
広島県	52.3%
山口県	51.8%
徳島県	51.5%
香川県	50.4%
愛媛県	45.4%
高知県	54.4%
福岡県	73.2%
佐賀県	53.2%
長崎県	73.8%
熊本県	58.2%
大分県	47.7%
宮崎県	46.0%
鹿児島県	58.3%
沖縄県	44.4%
全　国	63.6%

2010年12月現在、総務省消防庁まとめ

機能充実、設置も容易に

これまで一般消費者にとってなじみが薄かった住宅用火災警報器だが、普及に伴い、小売り店頭で目にする機会が増えてきた。その代表格である防災専門メーカー、ホーチキの「ハイガードシリーズ」は、シンプルな外観ながらも、マイコン制御の学習機能など最新技術を搭載。取り付けや設置の容易さも受け入れられ、累計販売個数は10年度末までに1100万個に上る。さらに1台が火災を感知すれば、グループ化された複数の警報器に無線信号で伝える無線連動型は、従来製品の2倍程度の価格にもかかわらず、市場投入以来、好調な売れ行きを示す。二世帯住宅を相互監視するなどさまざまな使い方が受け入れられているようだ。

普及期から発展期、そして成熟期に向かいつつある住宅用火災警報器市場。今後の商品開発方針をホーチキ営業本部住宅設備部の渡辺豊部長はこう語る。「火災警報器という商品ジャンルの付加価値をどう高めていくかを重視しています。バリエーション拡大はもちろん、ほかのセキュリティー機器との連動を促進するような技術革新も必要です」。

実際、同社の火災信号出力端子付き製品なら用途に応じ、さまざまな外部出力装置と接続可能。大きな音と光で火災を知らせるストロボライト付き補助警報装置と接続すれば、高齢者や目や耳の不自由な人でも安心。また、インターホンと接続すれば玄関子機が火災の危険を屋外に知らせるなど、「ホームセキュリティーの幅が広がる」（同社）というわけだ。

マーケットインの発想から生まれる新商品がさらなる技術革新を促し、市場拡大の原動力になる―。渡辺部長の脳裏にあるのは、すでに飽和市場とみられていた市場を活性化し成長商品の代表格となったスマートフォン（多機能携帯電話）。こうした高付加価値商品が、いったん普及が一段落した市場全体を牽引するような成長のビジネスモデルを描いている。

国も潜在需要をとらえた機器開発を促している。総務省消防庁は聴覚障害者に対応した火災警報設備のあり方を検討する有識者会議を10年に発足。普及へ向けた法整備や普及促進策について議論を重ねてきた。光や振動で火災を知らせる方式の警報器の普及促進や、一定規模以上の施設を建設する場合における光警報器の設置義務づけなどが検討されている。

東京・北青山にある「先端技術館 TEPIA」―。この4月にリニューアルオープンしたばかりの同施設にホーチキの住宅用火災警報器が展示されている。

先端技術と社会の進歩を広く一般にPRすることを目的に開設されたこの情報発信拠点に、機械や情報などさまざまな産業分野の先端製品と並び、火災警報器の技術が紹介されている。その姿こそが、安全・安心社会の実現に欠かせない製品としての重要性を象徴している。

火災警報器の設置を呼びかけるイベントが全国各地で開催される（10年秋、大阪府高槻市）

住宅用火災警報器「ハイガード」（ホーチキ）。取り付け場所は寝室、階段など。自治体によっては台所や居室にも義務付けるところも

住宅産業

好評！ 今日からモノ知りシリーズ

●A5判　●定価 各1,470円（税込）

トコトンやさしい
太陽電池の本
産業技術総合研究所
太陽光発電研究センター 編著
家の屋根での発電からビルの窓への利用、砂漠や宇宙での発電まで、最近急速に広がっている太陽電池。日本は今や世界一の太陽電池生産国である。そんな太陽電池の発電の仕組みや種類、産業から生活までの使用例などを紹介。この1冊で太陽電池が丸わかり。

トコトンやさしい
錆の本
松島　巌著
主として鉄の表面に出来る赤褐色の錆について、なぜできるのか?どうやって防ぐのか?大気中、水中、土中ではどうなのか?
錆の正体は何か?など、一般的な錆について、わかりやすく説く。

トコトンやさしい
燃料電池の本
燃料電池研究会編
地球温暖化を防ぐために一躍脚光を浴びているのが燃料電池。家庭用に自動車用に将来は大きな産業になると考えられている。その燃料電池とはどういうものか、開発研究はどこまで進んでいるのか、やさしく解説する。

トコトンやさしい
振動・騒音の本
山田伸志著
振動と騒音の発生メカニズムから、その対策の実際までを、数式を使わず図解でやさしく解説する。騒音・振動に直接かかわる人たちだけでなく、建設・土木、機械、電気・電子関係の実務者・設計者にとっても参考になる一冊。

トコトンやさしい
ガラスの本
作花済夫著
びんや窓、電球などの我々の日常生活に幅広く使われ、必要不可欠なガラス。各種の特性をもち、いろいろな形に作れるため、エレクトロニクスや光通信など新たな分野で使われることも多くなってきた不思議なガラスの世界をわかりやすく解説する。

トコトンやさしい
ユニバーサルデザインの本
宮入賢一郎・横尾良笑著
日本ユニバーサルデザイン研究機構監修
さまざまな人々にとって使いやすく設計された「ユニバーサルデザイン」。本書ではこの「ユニバーサルデザイン」について、その起源から基本思想、基本理解、導入プロセスに至るまでを解説、さらに各分野で活躍している「ユニバーサルデザイン」製品のポイントも紹介している。

トコトンやさしい
音の本
戸井武司著
人間は「音」を介して多くの外部情報を得ている。また音には、不快な音や快い音があり、現在、快い音を作る研究が盛んに行われている。本書では、「音とは何か?」の解説をはじめとして、自動車、家電、OA機器、カメラなどでの具体的な取組みまでを紹介。

トコトンやさしい
塗料の本
中道敏彦・坪田　実著
塗装という工程が複雑に絡み、一般的にブラックボックスになっている「塗料」をわかりやすく、かつきちんと解説。環境規制による環境対応型塗料、また機能性塗料における可能性など、技術者のみならず、ユーザー側にも塗料・塗装に関する正しい理解が求められている近年、必携の一冊。

FAX申込書 03(5644)7400

◎ご注文は書店または添付FAX申込書で弊社出版局販売・管理部までお申し込み下さい。

お問合せ先
日刊工業新聞社
出版局販売・管理部
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1
TEL03(5644)7410
http://pub.nikkan.co.jp/

〒
ご住所
TEL　FAX
会社名　部署名
注文者名

書名	冊数	金額
トコトンやさしい 太陽電池の本		
トコトンやさしい 燃料電池の本		
トコトンやさしい ガラスの本		
トコトンやさしい 音の本		
トコトンやさしい 錆の本		
トコトンやさしい 振動・騒音の本		
トコトンやさしい ユニバーサルデザインの本		
トコトンやさしい 塗料の本		
合計		

お申し込みの際、拡大コピーされたものをFAXされますようお願い致します。※弊社にお申し込みの方は送料を無料とさせていただきます。

お住まいのリフォームと一緒に、「安全」と「安心」もリフォームしませんか？

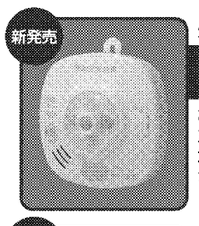
ホーチキの安全・安心よくばり計画

ホーチキなら、壁掛けタイプだから、取り付け「かんたん」！
●天井にも取り付け可能です。

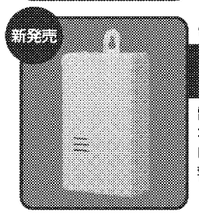
ホーチキの無線連動式住宅用火災警報器で、ワンランク上の安全・安心を。

新無線連動方式

取り付けた警報器どうしがお互いに情報交換し、より確実な通信相手を見つけることで、常に最適な通信ルートを選択します。



新発売
大きな音と強い光（フラッシュ）でお知らせ!
無線LEDフラッシャ SSFAHCC型
お年寄りや目・耳の不自由な方の部屋や、火災警報器の付いていない部屋などには、大きな音と光でお知らせする無線LEDフラッシャを取り付ければさらに安心。



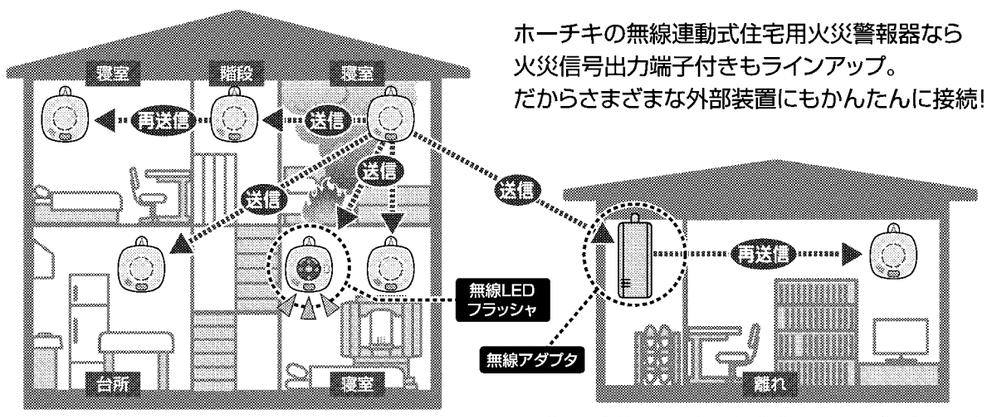
新発売
電波の届きにくい所でも確実に無線中継!
無線アダプタ SSIAHCC型
電波の届きにくい場所の警報器に、火災を発見した警報器からの火災信号を中継します。母屋の離れを連動させる場合や、警報器間に遮へい物がある時に効果的!

無線連動式 住宅用火災警報器 SS-2LR（煙式）
NS 日本消防検定協会

●「無線LEDフラッシャ」と「無線アダプタ」は、当社の無線式住宅用火災警報器と同じグループとして連動が可能です。

取り付けた部屋の全ての警報器が作動。■ 火災信号出力端子付き ■

ホーチキの無線連動式住宅用火災警報器なら
火災信号出力端子付きもラインアップ。
だからさまざまな外部装置にもかんたんに接続!



注意）使用場所の環境などにより、電波の到達距離は変わります。必ず通信テストを行ってください。

火災報知・消火・トンネル防災・情報通信・出入管理など各種システムの製造、販売、施工、保守
ホーチキ株式会社
本社 〒141-8660 東京都品川区上大崎2-10-43 TEL03(3444)4111 FAX03(3444)4118
http://www.hochiki.co.jp

住宅用火災警報器ご相談センター
ナビダイヤル（有料） 0570-077-155
受付時間 9:00～18:00（年末年始を除く）